

委員より

府立西淀川支援学校 令和2年度学校経営計画及び学校評価 に関して

2 中期的目標の評価指標について

- ・肯定的評価の対象は、学校教育自己診断の教職員でしょうか？ 保護者向けのことを指しているのか、明示されたほうが良いのではないかと思います。

（回答）中期目標の評価指標（数値目標）については、今年度より導入された。教職員の肯定的評価の数値をもって評価指標としています。

- ・中期的に約3カ年のスパンでみていくということであれば、評価指標をもう少し細かく区切り、例えば、85%～88%とする。（～を目標とする。）などの表記ではどうでしょうか。（中期的目標に昨年度の具体的な数値の記載はありますが）

（回答）少なくとも「前年度の数値目標を上回る」という意味合いから現在「～%以上」の表記が中心にしています。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標

- ・1(1) カリキュラムマネジメントは、(RV-) PDCA サイクルによる授業改善をもとにした学校改善にむけた取り組みと考えられるので、進捗状況の評価等を盛り込むなど、工夫されると良いと思います。

（回答）カリキュラム・マネジメント全体計画を作成し、年度当初に委員会メンバーで確認し進捗管理を行っています。また、令和2年度より月一回定例会議を設定し、課題の解決に向けて取り組んでいます。進捗状況の評価については、中期的目標の1. 3の肯定的評価が目標値より上回るようになることが評価になると考えています。

- ・1(1) 「主体的・対話的で、深い学び」について、何ををもってその学びが確立されたか（確立されつつある）とみるのか、指標になるものを示すと良いと思います。

（回答）新学習要領を受けて、本校で取り組む知的障害特別支援学校の各教科目標・内容の整理、12年間の系統性、シラバス作成の指針が令和3年度には一定方向が出せるものと考えています。その後、何ををもってその学びが確立されたか（確立されつつある）とみるのかの指標が必要であれば検討することになると思います。

- ・2(2) ミニ研修の独自アンケートの内容をまた教えてください。

（回答）この項目は、総務部の取り組みになります。ミニ研修については、分掌内研修を実施し校務で必要なオフィスソフトの使い方やiPadの活用について行い、研修後学んだ内容をどの場面で活用できたかをアンケートし、次年度への改善につなげていきます。

- ・3(1) アセスメントチェックリストを、PDCA サイクルによる授業改善にどのように活用するのか、反映させるのか、興味深いです。

（回答）平成29年度より広島県立福山特別支援学校より指導助言の講師を招聘し、チェックリストの導入、理解を進めてきました。今年度は、Ⅲ類型児童生徒の実態把握ツールとして実施し個別の指導計画の目標設定に活用しています。

- ・3(1) 本年度は外部講師による研修の実施見直し等を含め、変更や工夫が必要になるかもしれませんね。

（回答）夏期公開講座は中止し、授業研究の指導助言についてはオンラインで実施するなど変更や工夫を行っています。

- ・3(2) 児童生徒の個々の実態に応じた支援機器の活用について、また可能な時期になれば見学等させていただければと思います。ツールやデバイスの特徴を活かして、ADLはもちろん、将来的な社会的自立に向けた、主体的な活動につながれば良いと思います。

- ・3(3) 自立活動指導は、全教員の意識を高め、相互連携のもと行うものであると考えられるので、自立活動専任

が主になりつつも、全教員がいかにして主体的に PDCA サイクルで指導と評価を行っていくのが、大切になると思われます。

(回答) 専任と担任は常に連携して指導を充実させていく必要があると日々感じています。年度当初には、目標設定会議(専任と学級担任で目標設定を行う会議)を行い指導計画立案を行っています。この指導計画に基づき、実際の指導場面において具体的な指導のアドバイスをしています。また、自立活動事例検討会を行い、事例を通して自立活動の理解を深め全教員が主体的に自立活動に取り組めるようにしていきたいと思えます。

- ・ 4(1) 居住地校交流については、保護者のニーズを踏まえつつも、現実的には教員の過度の負担にならないよう、調整していく必要があると思えます。また取り組みについてうかがわせてもらいます。
- ・ 5(1) 昨今の自然災害や感染症の発症、防災・防犯に関する事象・事件等、不測の事態への対応が継起しています。障がいの実態に応じた避難訓練のマニュアル検討等、新たな検討が必要になるかと思えます。
- ・ 5(3) 本年度の困難な状況の下、学校ホームページの発信を進めておられます。さらに保護者や関係機関、地域住民等のニーズを吸い上げ充実を図ることができれば良いですね。

委員より

- ・ 新型コロナウイルス感染防止のため休校が続く、本来の経営計画通りにはできないことも多いと思えますが、感染を防止しつつ、その中での教育活動が生徒の負担なく行えるような工夫を望みます。
- ・ 今年度は運動会、文化祭、校外学習や修学旅行など、児童生徒にとって貴重な機会が極端に少なくなる可能性が高いですが、できる限りの代替案を考えて頂きたいです。

(回答) 行事を精選し、過度の負担を避けつつ、その中でも活動のバリエーションを確保するよう検討しています。

委員より

②について

- ・ スパイダーや視線入力などさまざまな機器の有効活用を継続してお願いいたします。5月15日のブログでは、大掃除・不要物の処分について記載がありました。教材の活用は、率先される教諭の異動等によって廃れる傾向のないよう、倉庫に眠ることのないよう積極的な管理(?)をお願いいたします。

(回答) スパイダー等の機器については、自立活動専任と研究支援部が中心となり有効活用を推進していきます。教材については、今年度より教材室を二部屋用意し、全校の認知学習教材を集約し研究支援部が中心となり管理と活用推進をしています。

- ・ 新型コロナウイルスによる休校中の動きとして、個人面談、家庭訪問スタートがブログにありましたが、休校中の教諭の動きについての情報発信が必要と思えます。暇なんじゃないか?という要らぬ疑義を生徒、家庭に生ませないためにも。ZOOM等を利用した動画配信については、可能であれば観てみたいと思えますので、次回協議会開催の折にはぜひ、と思えます。

(回答) 配信した動画を見ていただくことはできます。ZOOMによる双方向の授業はまだ実施していませんが、保護者との電話連絡時には使用しています。また、訪問教育時にはこれまでも双方向の授業は行っています。

委員より

- ・ 現在のコロナ禍、休校や分散登校になった時の学校と子どもとの繋がりに保護者は不安に思っています。IT機器の活用、webホームルーム、ホームページで情報を伝えるなど、対策を強化して欲しいです。

(回答) 年度当初は校内体制作りや、府等からの通知待ちの状態により、保護者への情報提供に時間を要しました。今後はこれまでの、校内体制やノウハウを生かし極力速やかに情報発信できるよう努めたいと思えます。